

# 平成30年度 自己評価及び学校関係者評価書

平成31年3月18日  
市立札幌豊明高等支援学校

## 1 本年度の重点目標

- (1) 多様化する生徒一人ひとりへの支援の更なる充実
- (2) チームによる支援体制の強化
- (3) 生徒と向き合う時間や場所等の確保
- (4) 地域社会とのより一層の連携
- (5) 学校運営組織の見直し
- (6) 「新しい豊明が始まります」(新しい教育課程) 具体的な内容
- (7) みなみの杜との特色ある2校体制

## 2 本年度の経営方針

- (1) 生徒が楽しく学びあい、一人ひとりが主体的に学習に取り組み、力を発揮できる学校づくり
- (2) 「個別の指導計画」に基づき、一人ひとりのニーズに対応した教育を推進する学校づくり
- (3) 「個別の教育支援計画」を活用し、キャリア教育を推進することにより、生徒一人ひとりの発達を支援し、卒業後の社会生活の充実を図る学校づくり
- (4) 保護者や地域に開かれ、信頼される学校づくり
- (5) 教職員が専門性の向上に努め、相互信頼のもとに協力・協働で校務を推進する学校づくり
- (6) 関係機関と連携し、特別支援教育のセンター的な役割を推進する学校づくり

## 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

※達成状況について

⇒A 達成できている B 概ね達成できている C あまり達成できていない D 達成できていない

※学校関係者評価について

⇒A 適切である B 概ね適切である C あまり適切ではない D 適切ではない

| 分野       | 評価項目                              | 自己評価 |   | 学校関係者評価  |         |
|----------|-----------------------------------|------|---|----------|---------|
|          |                                   | 達成状況 | 改善の方策   | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 学校経営に関して | 「30年度の学校経営方針」を十分理解している            | B    | A+B 91% 概ね理解しているとは考えているが、今後も経営方針を丁寧に教職員へ向けてアナウンスする。               | A        | A       |
|          | 「30年度の学校経営方針」を強く意識した上で、教育活動を行っている | B    | A+B 85% この項目も常に教職員が意識できるように、日頃からことある毎にアナウンスする。                    | A        | A       |
|          | 教員一人一人が積極的に学校運営に参画している            | B    | A+B 86% 昨年度に比べ14%アップしている。今後も教職員が積極的に参加する体制を考える。                   | A        | A       |
|          | 職員会議、校務部会などの諸会議が効率的に運営されている       | B    | A+B 85% 教務部が中心となり会議の効率化を図っている。来年度はペーパーレス化に取り組むことになっている。           | A        | A       |
|          | 学年の経営方針、目標が具体的に共通理解が図られている        | B    | A+B 81% 学年だよりや学年会、生徒集会等でも機会があれば学年の方針について触れていく。また、簡潔で具体的な言葉で伝えていく。 | A        | A       |

(様式2)

|                          |   |   |  |   |     |
|--------------------------|---|---|--|---|-----|
|                          | 課題の設定が明確で、目的意識を持った研修が行われている   | A   | A+B 89% 今後も課題設定を明確化し、教職員にとってより良い研修計画をたてる。                        | A | A-① |
|                          | 教職員間で、生徒理解について研修・検討する機会が整っている   | B+  | A+B 91% 今後、生徒理解研修の充実を図り、個々のケース会議を特別支援コーディネーター主導で実施していく。          | A | A   |
|                          | 教職員間で、授業方法、評価等について研修・検討する機会が整っている   | B   | A+B 78% 昨年度比+23%今年度に引き続き授業公開・研究授業を積極的に推進する。                      | A | A   |
| 学校関係者評価委員<br>による意見       | ①現状把握、分析し課題を明らかにした上でピンポイントの研修計画立案を望む。<br>・地域コミュニティとの各種連携や“豊明ブランド”について、教職員の皆さんがその有効性等を理解・意識して、自発的・能動的に取り組めると素晴らしい。<br>・先生方の業務量の効率的軽減化へ発想の転換をしながら進めていって下さることを願っている。超多忙→多忙→希多忙(のぞみ多き忙しさ)となってほしい。 |   |  |   |     |
| 教育活動<br>に関して             | 生徒の実態や社会の変化に対応した教育課程の編成を行っている   | B   | A+B 84% 平成31年度入学生より実施される教育課程の確実な実施と細かな微調整を推進していく。                | A | A   |
|                          | 社会自立に向けて実践的な教育内容が日々の教育活動で行われ生きる力の育成につながっている   | B   | A+B 90% 卒業後の社会自立に向けて、よりキャリア教育の充実を図る。                             | A | A   |
|                          | 個別の教育支援計画や個別の指導計画(通知表)の目標設定や評価は、生徒一人一人の実態に合わせて適切に行われている   | B+  | A+B 92% 一人ひとりの目標を明確にし、目標達成のための教育活動と支援の充実に努める。                    | A | A   |
|                          | 個別の教育支援計画や個別の指導計画(通知表)の評価時期は適切である   | B+  | A+B 96% 現時点では適切と考えているが、更に生徒にとって適切な時期を熟考する。                       | A | A   |
|                          | 通知表の形式は、生徒、保護者、評価者にとって適切である   | B   | A+B 67% 生徒・保護者にとってわかりやすく、教職員が指導の修正を図れる形式を模索する。                   | A | A-① |
|                          | 総合的な学習の時間は、地域の特徴や生徒の興味・関心を生かした題材が設定されている  | B-  | A+B 60% 総合的な探求の時間に変わることを踏まえ、現在実施している内容の教職員への周知と、内容改善に関する意見集約を行う。 | A | A   |
|                          | 問題行動が起きたとき、組織的に迅速に対応することができる  | A   | A+B 93% 来年度は積極的生徒指導を段階的に実施し、チーム豊明で情報を共有し指導にあたる体制を構築する。           | A | A   |
|                          | 生徒指導に関して、保護者の理解と協力が得られて連携が取れている   | B   | A+B 91% 概ね達成できているが、今後も保護者の理解と協力を得られる教育活動と保護者との密な連携を図る。           | A | A   |
|                          | 生活の決まりについて、教職員間で共通理解が図られている   | B   | A+B 84% 生徒指導部主導のもと、各学年で確認し共有を図る。                                 | A | A   |
| 精神的に不安定な生徒に指導を行う体制が整っている | B   | A+B 88% 今年度SSWに入っただくことで支援できているケースがあったことから、来年度も活用していく。 | A  | A |     |

(様式2)

|                |   |    |   |     |     |
|----------------|---|----|---|-----|-----|
|                | スクールカウンセラーは利用しやすい環境にありますか   | A  | A+B 96% 前期で、のべ 242 人の利用があった。今後も生徒に利用しやすい環境を整える。             | A   | A   |
|                | 生徒・保護者のニーズに応じた、適切な進路相談・進路指導・進路決定が行われている   | A  | A+B 96% 本校のストロングポイントである進路指導を今後もブラッシュアップしていく。                | A   | A   |
|                | 各学年の現場実習の取り組みは、実習期間・目標・実習場所など適切である  | B+ | A+B 95% 本校の目指す生徒像や生徒の実態に合わせ、新1年生から新しい取組が始まる。円滑な実施と検証を行う。    | A   | A   |
|                | 進路先や関係機関と連携し、適切な卒後支援が行われている   | A  | A+B 94% 本校のストロングポイントである卒後支援の在り方を、教員の働き方改革を踏まえ模索する時期である。     | A-② | A-② |
| 学校関係者評価委員による意見 | <p>①通知表の作成にあたっては、主観にとらわれず、可能な限り客観的な評価を目指すことが大切。そのことで担任、保護者や本人、他の教員が同じ視点で生徒の力を見極め、次のステップへ導いていくことができる。また、評価の項目においては、情意的な評価と能力的な評価をきちんと分けて評価することも大切である。</p> <p>①指導計画(通知表)に関しては、じっくり読むと先生方の細やかな評価を感じ取れる反面、やはり把握しづらい感もある。3年間を通して各項目でどうレベルアップを遂げてきたか・課題は何か等がひと目で把握できるような様式を望む。</p> <p>②年々保護者への多様な進路選択とその形態等の説明が詳しく丁寧に工夫されてきている。が、やはりその仕組みや現状などは保護者にとってまだまだ分かりづらいようにも感じる。卒後に本人自身が取り組むべきこと・しないほうが良いこと、保護者がしない方が望ましいこと・する方が望ましいこと等、卒後支援を通して感じたことなども様々な場面で生徒・保護者に提供するというのはどうだろうか。</p> <p>②「進路を決める」だけでなく、「地域で働き・暮らし続けていく」ことを想定し、教職員が地域をよく知って、在学中から地域関係機関との関係づくりや役割分担など、よりスムーズに・有効に連携していければと思う。</p> |    |   |     |     |
| 環境             | 施設・設備の拡充・点検・補修は、必要性・緊急性を考えて整備されている  | B  | A+B 71% 今後も生徒の安全・安心を確保できるよう、優先順位を考え整備する。                    | A   | A   |
|                | 情報セキュリティを守り、適正に校務ネットワークを活用している  | B  | A+B 97% 市立学校情報セキュリティポリシー順守を今後も呼びかける。                        | A   | A   |
| 学校関係者評価委員による意見 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティポリシーの順守について、教職員はもちろん、生徒たちにもしっかり伝えていく(教育していく)よう、心がけてほしい。</li> <li>・特別支援教育への予算を国をあげて増やしてほしい。洋式トイレは必ず整備してほしい。</li> <li>・地域避難所としての役割もある学校の施設整備が後回しにされないことを願う。</li> </ul>  |    |   |     |     |
| 今日的な課題         | 平成31年度の新しい学校づくりに向けた豊明カリキュラムマネジメントに組織的・計画的に取り組んでいる   | B  | A+B 90% 今後も平成33年度の完成年度に向け、分掌・特別委員会で取り組む。                    | A   | A   |
|                | PTA 活動内容の精査が適切に行われている   | B  | A+B 95% 今年度大幅な組織改編を実施した。来年度以降も参加しやすい活動を目指して総務部を中心として精査していく。 | A   | A   |
|                | 家庭への連絡をきめ細やかに、家庭との連携が図られている   | B+ | A+B 97% 今後も保護者の願いを真摯に受けとめ、相互理解・相互協力に努める。                    | A   | A   |

(様式2)

|  |  |   |   |     |
|--|--|---|---|-----|
| 児童相談所、病院、施設等、他機関と連携し、生徒の支援にあたることができている | B+   | A+B 97% 今後も校内支援会議や他機関が主催するケース会議を通して、他機関と積極的に連携にあたる。                 | A | A   |
| みなみの杜高等支援との2校体制は、互いにとって、良いかたちで進められている  | B  | A+B 68% 体制を推進していく運営方法を、常に両校と市教委で共有していく必要がある。また、教職員や外部への積極的な情報発信を図る。 | A | A   |
| 地域における特別支援教育のセンター的機能を検討し、実践に努めている      | B  | A+B 78% 支援部を中心として学校公開や教育相談を積極的に実施する。また、外部発信や地域との連携を推進する。            | A | A   |
| 教職員の働き方改革を踏まえ、業務は整理されている               | C  | A+B 48% ビルド&ビルドではなく、スクラップ&ビルドを念頭に校務内容調整委員会(仮)等を立ち上げ、業務の整理を図る。       | A | A   |
| 教職員の働き方改革を踏まえ、職員は業務を計画的に遂行している         | B-   | A+B 61% まずは前項の業務整理を推進することはもちろん、教職員への啓発を図る。                          | A | A   |
| 本校の危機管理(災害等に対して)は、十分に整えられている           | B  | A+B 78% 今年度の震災を教訓とし、PTAとも連携した「物品の備え」と防災委員会が実施する「心の備え」を並行して展開する。     | A | A   |
| 生徒のアレルギー対応は、本校の実態に合わせて適正に行われている        | A  | A+B 100% 来年度も本校生徒の実態に即した対応を充実させていく。                                 | A | A   |
| 部活動の数は、適当である                           | B  | A+B 73% 生徒の実態に合わせ、教職員の働き方を視野に入れて検討する。                               | A | A-① |
| 学校関係者評価委員による意見                         | <p>①教職員の負担にならないことが前提であるが、部活動については、卒後の余暇支援につながる様々な経験ができる機会である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなみの杜との連携・協働については今後とも是非進めてほしい。スクラップアンドビルトについても、是非教職員みんなで取り組んでほしい。</li> <li>・問題が起きることが悪いのではなく、問題が起きた時にどうしたらいいのか?を常に意識し、相談することの良さと方法をいつでも聞けるのが「チーム豊明」の底力であってほしい。</li> <li>・豊明祭や即売会レインボーフェスタなど金銭を扱う場面でも生徒達がもっと主体的に関わることを意識してはどうか。大人が手助けをし過ぎて失敗がない事より、ギリギリまで見守って(敢えて少し失敗してでも)大事なことを共に身に付けていく教育現場であってほしい。そのためのサポーターとしてのPTAの関わりを期待する保護者の声も耳にする。子どもが転んで怪我をしないよう手を貸すより、もし転んでも自分の力で立ちあがるのをじっと見守り「痛かったね、でも頑張ったね」と寄り添えるのも大人の責務のような。その上で必要な智慧を私達大人が全力で出し合っていく生徒・教職員・保護者の三位一体の運営が為されたら、と勝手な思いを抱いている。</li> </ul> |   |   |     |

※達成状況の ABCD 評価は、最頻値でランク付けしている。すなわち、度数として一番多かったランクを採用している。また、B+はAとBが9ポイント以内、B-はBとCが9ポイント以内である。

※昨年度は得点化して平均を算出し評価していた。このように評価方法が異なることをお知りおき願いたい。